

最も経済的で手軽に地力増進できる

果樹園の草生栽培 (II)

千葉研究農場 兼子達夫

〈3〉 草生栽培で果実の収量増大

果実収量は樹の生育とほぼ一致し草生栽培、草生敷草により20~60%もの増収となります。次の青森県リンゴ試験場および四国農業試験場の成績から明らかです。

■リンゴ試験地の25年間にわたる収量比率

(青森リンゴ試験場)

区	年次	昭6~15 (10年間) 平均	昭16~25 (10年間) 平均	昭26~31 (5年間) 平均
清耕3要素		100 %	100 %	100 %
清耕無肥料		63.6	63.1	63.5
清耕堆肥		101.6	97.2	78.0
草生		102.2	108.0	122.8

- (註) 1) 清耕3要素区以外は、昭27まで無肥料で栽培。昭28以降は3要素施用。
2) 草生はアカクロバ、シロクロバが生体。

〈4〉 草生栽培で果実品質が向上

草生栽培によって、一般に果実の着色と成熟が促進されるとともに、糖度が増加することが多い。これは草生によりチッ素の奪い合いがあるため、有効態チッ素の吸収が抑制されやすいからです。つまり草生栽培で果実品質(市場性)が向上されます。

■温州みかん(若木)の土壌管理と果実収量(四国農業試験場)

土 壌 管 理	10a 当り果実収量 (4年間平均)
1 清耕(深耕)	2,148kg 100%
2 草生敷草(〃)	3,407 159
3 〃(不耕起)	2,304 107
4 敷わら(深耕)	3,223 150
4 清耕(深耕)灌水	1,854 86
6 草生敷草(〃)〃	3,482 162
7 〃(不耕起)〃	3,320 154

■温州みかんの糖度(屈折計示度)(広島県農試)

